

# 4年に一度の 荒神祭

約30束のわら大蛇を担いで  
練り歩く



大蛇は約1反分(約2000束)のわらからなり、全長30メートル以上。頭には2本の角があり、安泰を祈る13本の大御幣と、各戸の数の小御幣が飾られます。

## 赤松荒神祭

五穀豊穣、子孫繁栄を願う赤松地区の伝統行事、赤松荒神祭が3月2日に行われました。穏やかな日差しの中、わら大蛇を日吉神社の氏子など約60人が担いで練り歩き、日吉神社に奉納しました。

## 350年以上続く伝統

古文書によると、承応3年(西暦1654年)赤松

地区が大干ばつに見舞われました。そのとき氏神から「閏年に大蛇を奉納すれば豊年になる」とのお告げが。それ以来閏年には各戸からわらを持ち寄り、大蛇を作って日吉神社に奉納するようになりました。この風習が現在まで古式にのっとり継承されています。

## 入り婿が認められる日

わらを持ち寄った地区住民が大山小学校赤松分校の体育館で、大蛇を2日かかりで製作。完成後、日吉神社の鷲見寛幸宮司が祝詞をあげて、入魂し、大蛇行列が行われました。

大蛇の腹部には男性の象徴が作られ、この部分は閏年から次の閏年の間に赤松地区に来た入り婿が担ぐ習わしになっています。

ずしりと重い大蛇を肩に担ぎ上げ、村中を右に左に揺れながら練り歩いた後、無事神社に奉納しました。前回到りで入り婿役をした野口克人さんは「重くて大変ですが、終わった後に充実感があります」と流れる汗を拭きながら役を果たした感想を話しました。

## 奉納された大蛇



行列を先導する赤松地区の子どもたち

鷲見宮司によると、神社横の一角に奉納された大蛇は、4年間をそのままそこで過ごし、最後には朽ちて手で少し掃除すればいいくらいになるとのこと。また、大蛇の腹にあたる部分の土の中には、酒が5合ほど陶器に入れて埋めてあり、そこで4年間静かに醸造された後、祭り前日に皆に振舞われるそうです。その味は、前回はワインのような、そして前々回はブランデーのような味わいに変わっていたそうです。

4年に一度のこの祭は、現在も赤松地区住民の結びつきを強める大切な行事になっています。

## 今月の税 軽自動車税

納期限は4月30日(水)です



大山町広報 4月号 No.42

◆発行：大山町役場

◆編集：企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-2702

大山町ホームページ

http://www.daisen.jp/

◆印刷：有限会社米子プリント社

山陰道名和・淀江道路の開通を記念したウオーキングイベントを取材しました(表紙写真)。ちょうど半年前の9月22日には、大山・淀江ICで開通記念ウオーキングがあったばかりです。今回も天候に恵まれ、約600人が参加して、開通前の道路の歩き初めを行いました。ウオーキングを先導するのは後醍醐天皇の故事にちなんだ帆掛け舟。舟本体は町の青年団が腕を振るい、手作りしました。そして名和地区内の保育所園児が交通安全の願いを込めて書いた短冊をつないで帆にし、参加者も願いごとを短冊に書いて舟に結びつけました。早春の冷たい風を帆に受けながら、参加者が交替で曳いて往復約9kmのゴールを目指しました。人と舟の次は車です。3月29日から供用が開始され、新たな山陰道の歴史が刻まれます。

## 編集後記